

認知症高齢者の入浴ケアにおけるローズ水を用いた芳香療法の効果

原祥子¹、竹田裕子¹、中村守彦²、福間厚³、福間裕紀³

島根大学医学部看護学科¹、産学連携センター²、奥出雲薔薇園³



研究背景

【認知症高齢者の入浴】

入浴拒否 攻撃行動 興奮

ケア提供者の援助が困難

芳香療法
《ローズ》

- ・ BPSD（攻撃性、興奮）緩和効果
- ・ QOL や ADL の改善につながる

研究目的

認知症高齢者の入浴ケア場面においてローズ水を用いた芳香療法を行い、認知症高齢者に対する有用性を検討すること

研究方法

【対象者】

介護老人保健施設に入所中で、一般入浴の援助を受けている認知症高齢者 6 名

介護老人保健施設 もくもく（島根県出雲市）



入浴中に攻撃行動や興奮（それらに近い様子）がみられ、ケア提供者が援助困難を感じている者

【方法】

単一被験体法による ABA デザイン^註を用いて芳香療法の効果を評価した。

芳香を用いた入浴（B）を 1 回、その前後に芳香を用いない通常の入浴（A）を各 1 回実施した。

註）ABA デザイン：治療介入及び除去の効果を分析することが可能

【評価方法】

脱衣室及び浴室における入浴行動過程の観察をし、研究対象者の感情評価を 2 分毎に実施した

Lawton が作成した Philadelphia Geriatric Center Affect Rating (ARS) を基に、村上らが考案した認知症高齢者の表情観察の基準を参考に「Happy」, 「Neutral」, 「Unhappy」に分類したものをを用いた

【芳香方法】

入浴開始時間の約 10 分前から脱衣室において「さ姫」ローズ水を気化式加湿器で散布した

奥出雲薔薇園で栽培されている薔薇「さ姫」から抽出されたローズ水。「さ姫」は交配を重ね、香りと色を目的に改良したハイブリッド・ティの変種であり、通常の薔薇よりも極めて強い芳香、香りの品質が上品という特徴をもつ。この「さ姫」ローズは、トップノート（水蒸気蒸留によって最初に出てくる香り）のみを抽出してつくられた。揮発性が高く残臭がない、水溶性で濃度の調整がしやすいという利点がある。



研究方法

【分析方法】

- ①対象者それぞれにおいて観察した「Happy」数と「Unhappy」数の差（以下「Happy」数－「Unhappy」数とする）を算出。
- ②下記において「Happy」数－「Unhappy」数の差を検討するために Wilcoxon の符号付順位検定を行った。（有意水準は5%未満を有意とした。）
 - 芳香を用いない入浴（A）と芳香を用いた入浴（B）
 - 芳香を用いた入浴（B）と2回目の芳香を用いない入浴（A）
 - 1回目と2回目の芳香を用いない入浴（A）

【倫理的配慮】

島根大学医学部看護研究倫理委員会の承認を得て実施。

施設長，及び看護・介護管理者に対して文書と口頭で説明を行い，研究実施許可書への署名をもって同意を得た。

高齢者の家族に対して，文書を用いて研究の趣旨・方法，協力の自由と途中での辞退可能，参加の如何や途中辞退のいずれにおいても不利益はないこと，個人情報遵守と成果の公表について説明し，同意書への署名の返送をもって同意を得た。

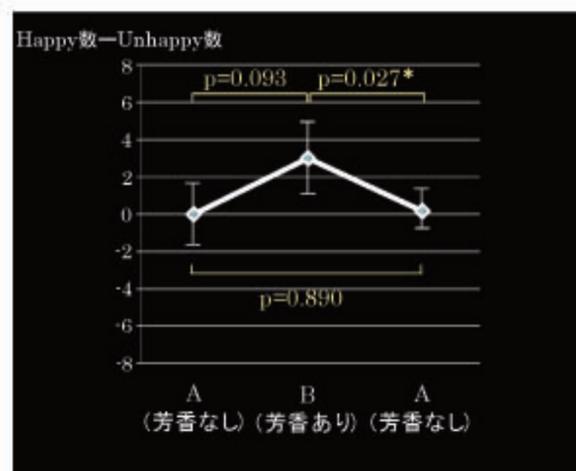
高齢者に対しては，研究者が毎回の観察実施前に研究の方法について写真を用いながらゆっくり丁寧に説明し，口頭やうなずきでの承諾を複数の施設スタッフとともに確認した。

結果

【対象者の背景】

- 男性3名，女性3名
- 平均年齢：85.83±5.11歳
- 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準
Ⅲ：4名，Ⅳ：2名
- 1人あたりの入浴行動過程時間 約20～21分

【ABAにおける全体の感情評価】



考察

- 入浴過程において芳香を用いた時は芳香を用いない時よりも「Happy」の数と「Unhappy」の数に差が大きい結果となった。したがって，入浴行動過程においてローズ水を用いた芳香療法は認知症高齢者の表情を穏やかにする効果をもたらすことが示唆された。
- 身体に痛みがある場合は，芳香療法の効果が期待できないことが推察された。そのため，対象者を増やし検討を重ねる必要があると考える。

受賞

・『ものづくり連携大賞・特別賞』

（主催：日刊工業新聞社、後援：文部科学省、経済産業省他）を受賞

・第2回日本認知症予防学会において『浦上賞』を受賞